

公益社団法人 日本獣医師会創立 70 周年記念行事の開催

平成 30 年 11 月 30 日、パレスホテル東京「葵」において、本会創立 70 周年記念行事が開催された。

まず、創立 70 周年記念式典が、吉川貴盛 農林水産大臣、原田義昭 環境大臣、大口善徳 厚生労働副大臣、ジョンソン・チャン 世界獣医師会会長、横倉義武 日本医師会会長、自由民主党獣医師問題議員連盟幹事長 森英介 衆議院議員、中央畜産会会長 森山 裕 衆議院議員をはじめ、農林水産省、環境省、厚生労働省、文部科学省幹部及び関係団体、企業から約 400 名のご臨席を得て、盛大に開催された。

また、式典に続き、創立 70 周年を記念して、横倉義武 日本医師会会長から、「健康長寿社会に向けて」と題した講演が行われた。次いで、創立 70 周年記念祝賀会が開催され、集った方々が 70 周年を祝い、和やかに歓談された。

なお、日本獣医師会創立 70 周年記念行事の開催概要は次のとおり。

I 公益社団法人 日本獣医師会創立 70 周年記念式典

- 1 日 時：平成 30 年 11 月 30 日(金) 14:00～15:30
- 2 場 所：パレスホテル東京 2 階「葵」
- 3 次 第：
 - (1) 開会の辞
 - (2) 日本獣医師会会長挨拶
 - (3) 来賓ご祝辞
 - (4) 来賓ご紹介・祝電披露
 - (5) 事業報告
 - (6) 功労者表彰
 - (7) 受賞者代表謝辞
 - (8) 閉会の辞



創立 70 周年記念式典会場風景（パレスホテル東京「葵」）

4 記 念 式 典

(1) 開会の辞

〈公益社団法人 日本獣医師会 砂原和文副会長〉



開会挨拶を行う
砂原和文副会長

砂原副会長から、公益社団法人 日本獣医師会創立 70 周年記念式典を開会する旨が宣せられ、開会された。

(2) 日本獣医師会会長挨拶

藏内会長から大要次のとおり式辞が読み上げられた。

〈公益社団法人 日本獣医師会 藏内勇夫会長〉



藏内勇夫会長挨拶

公益社団法人 日本獣医師会創立 70 周年記念式典の開会に当たり、日本獣医師会を代表してご挨拶を申し上げます。

この記念式典には、吉川貴盛 農林水産大臣、原田義昭 環境大臣、大口善徳 厚生労働副大臣をはじめとする中央官庁からのご来賓、自由民主党獣医師問題議員連盟幹事長 森 英介 衆議院議員、中央畜産会会長 森山 裕 衆議院議員、さらに日本医師会会長 横倉義武先生をはじめ、関係団体及び企業から多数のご来賓にご臨席いただき、また、世界獣医師会 ジョンソン・チャン会長には遠路はるばるご来日いただきました。要務ご繁忙の中、ご臨席いただいた皆様

方に深甚の謝意を表する次第であります。

まず、これまでの各分野での様々なご功績により、本日本表彰の栄に浴される方々に、心からお祝い申し上げます。

さて、本会は、昭和23年に社団法人日本獣医協会として設立され、昭和26年に社団法人日本獣医師会に改称された後、平成24年に公益社団法人に移行して現在に至っております。本会は設立以来、47都道府県及び8政令市の55地方獣医師会を会員として、小動物及び産業動物の診療獣医師をはじめ、家畜衛生及び公衆衛生並びに動物福祉及び野生動物の管理を担当する公務員獣医師等、幅広い分野に就業する獣医師とともに公益活動に従事してまいりました。

本会設立の時期は、国民の食糧確保が第一とされ、われわれ獣医師の職責も畜産物をはじめとする食料の増産が最も重要とされた時代でありました。その後、わが国経済は高度成長を遂げ、今日、獣医師には産業動物診療を通じての畜産の振興、食の安全と安心の確保のほか、家庭動物に対する高度で多様な獣医療の提供、人と動物の共通感染症の予防、動物の愛護と管理、野生動物の保護・管理等多様な社会の要請に応えながら、国民生活の向上に貢献していくことが期待されております。

最近の本会の活動においては、“One Health”の推進、動物愛護とマイクロチップの装着・登録の義務化、動物看護師の公的資格化によるチーム獣医療提供体制の整備、大規模災害への対応、獣医学教育の改善・充実、女性獣医師の就業支援等を重要な課題として対応してまいりました。

“One Health”の推進につきましては、一昨年、福岡県で開催された第2回世界獣医師会-世界医師会“One Health”に関する国際会議において採択・公表された「福岡宣言」を踏まえ、日本医師会との連携を一層強化しながら、関係省庁のご理解とご支援も得て、連携シンポジウムの開催等、関係者間の情報共有に努めています。

本日、日本医師会の横倉義武会長には、日本獣医師会との連携活動の一環として、「健康長寿社会に向けて」をテーマに記念講演を行っていただくこととしております。横倉会長、ご多忙の中、誠にありがとうございます。

また、最近、地震や津波、豪雨による洪水等、各地で災害が頻発しています。われわれは阪神・淡路大震災、東日本大震災等において、大規模災害における被災動物救護活動を経験してきました。この間、構成獣医師は、惨状の中で傷ついた動物の救護のため、動物を支えている被災者の方々のために立ち上がり、多くの国民の皆様への支援を得て救護・復旧活動を実施してまいりました。このような災害は、今後わが国のどの地域でも発生すると思われ、本会としても、さらに十分な支援体制の構築が必要であると考えています。

日本獣医師会は、このように時代や社会の変化に対応

し、様々な施策に取り組んでまいりましたが、この意義ある創立70周年を節目とし、獣医師が一層国民生活の向上に貢献し、人と動物が共生する豊かな社会の発展のために活躍することができる環境の整備に尽力してまいります。

ご出席の皆様方のこれまでのご支援に心から感謝申し上げますとともに、今後とも日本獣医師会の活動に対しご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

(3) 来賓ご祝辞

来賓から大要次のとおりの式辞を頂戴した。

〈吉川貴盛 農林水産大臣〉



吉川貴盛農林水産大臣
来賓挨拶

本日は、創立70周年、誠におめでとうございます。また、本日本表彰をお受けになる皆様方に対し、心からお慶び申し上げます。

日本獣医師会は、様々な動物の保健衛生の向上及び畜産業の発展のため重要な役割を果たされており、深く感謝の意を表する次第であります。

この10年間の出来事としては、平成22年の宮崎県での口蹄疫の発生が挙げられます。全国の獣医師の皆様への必死の防疫作業のおかげで終息を見ることができました。

最近では、本年9月に発生した北海道胆振東部地震では、家畜やペットの健康を守るため、獣医師の皆様が大変な努力をされたと聞いております。

家畜衛生関係では、国内で26年ぶりに豚コレラが発生し、アフリカ豚コレラも中国でまん延しています。農場における獣医師の皆様への衛生管理指導を宜しくお願い申し上げます。

このほかにも、平成28年に世界獣医師会、世界医師会、日本医師会及び日本獣医師会の4者による「福岡宣言」に基づく薬剤耐性対策の実践や、産業動物獣医師の地域偏在・人材の確保等の重要な課題が山積しております。農林水産省としても、これらの課題に適切に取り組んでまいっている所存です。

結びに、創立70周年を契機といたしまして、獣医師の皆様への固い結束の下で今後さらに飛躍を遂げられることを祈念いたしまして、私の挨拶といたします。

〈原田義昭 環境大臣〉

日本獣医師会が創立70周年の記念すべき年を迎えられ、本日ここに記念式典が盛大に開催されますことを、



原田義昭環境大臣
来賓挨拶

環境大臣として心よりお慶び申し上げます。また、本日栄えある功労者表彰をお受けになる皆様方には、心よりお祝いを申し上げます。

日本獣医師会の皆様におかれましては、70年にわたり、畜産の振興、公衆衛生の発展、さらに動物愛護や福祉の推進といった分野で、多大なる貢献をされてこられました。

ここに、改めて深く敬意を表する次第であります。

さて、環境行政に話を転じますと、地球温暖化、生物多様性をはじめ地球規模での環境問題に関心が高まる一方で、少子高齢化やライフスタイルの変化を背景に、ペットを含む身近な動物との共生が重要な課題として注目されております。

動物愛護の分野では、動物愛護管理法の附則に基づき、販売される犬、猫等へのマイクロチップの装着の義務化に向けて、調査研究の推進や普及啓発を行っておりますが、マイクロチップの装着にあたっては、獣医師の皆様のご協力が不可欠であると認識しております。

また、特に、近年、多発する自然災害に際しては、被災ペット対策について、全国の都道府県獣医師会と連携して派遣された緊急獣医療派遣チーム（VMAT）が対応いただき、ペットの健康状態の把握や一時預かり等の対応にご尽力いただいております。改めて感謝申し上げます。

このほか、野生動物に関しても、傷病個体の救護、野鳥における鳥インフルエンザウイルスの検査等の対応、動物園における生息域外保全の取組み、希少な野生動物の保護のための取組みなど、地域の獣医師の皆様にも多大なるご協力とご指導をいただいております。

このように、貴会と環境省との関係は、人と動物の関係が変化する中で、年を重ねるごとに幅広く、また深くなっております。

環境省といたしましては、国民からの高い関心を背景に、今後とも、人と動物との共生に向けた各種取組みを推進してまいります。獣医療の各分野の第一線でご活躍されている貴会及び会員各位の一層のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

最後に、日本獣医師会の今後ますますのご発展と本日お集まりの皆様のご健勝をご祈念申し上げ、私のお祝いの挨拶とさせていただきます。

〈大口善徳 厚生労働副大臣〉

公益社団法人日本獣医師会の皆様、創立70周年の記念すべき日を迎えられるに当たり、心からお祝いを申し上げます。



大口善徳厚生労働
副大臣挨拶

貴会は獣医学術の振興・普及等を図るため昭和23年に設立されて以来、70年の長きにわたり歴代会長や会員各位の活発な活動を通じて、食品安全や動物由来感染症対策など公衆衛生の向上に多大な貢献をされてこられたことに、深く敬意を表します。

近年、世界ではエボラ出血熱、鳥インフルエンザ、MERSなどの動物由来感染症が次々と発生しており、人類の脅威となっています。また、国内においても、SFTSやエキノコックス症などの発生が話題となっています。さらに、薬剤耐性、いわゆるAMR問題については、対策をとらなければ、2050年には世界で年間1,000万人の方が亡くなるとの推計もあり、世界的な課題となっています。

これらの課題に的確に対応するためには、獣医師の皆様が、医師などの関係者と分野の壁を越えて連携するワンヘルス・アプローチの取組みが重要です。

厚生労働省としても、それぞれの分野の専門家が同じテーブルで議論できる場を設定するなど、農林水産省等の関係省庁と連携してワンヘルス・アプローチの取組みに向けた環境整備を進めていきます。

食品の安全対策も、獣医師の皆様が活躍が期待される分野です。食生活の多様化や、食品流通のグローバル化など日本の食品安全をめぐる環境変化が進む中で、広域的な食中毒の発生や食品衛生規制の国際的な整合性を図ることなどが課題となっております。

このため、厚生労働省としても、食品衛生法の改正法案を先の通常国会に提出し、国会での議論を経て可決・成立し、6月13日に公布されたところです。

今回の改正では、広域的な食中毒の発生や拡大を防止するため、国と自治体間の連携・協力を義務化するとともに、広域連携協議会を設置すること、原則として、すべての食品等事業者に対し、HACCPに沿った衛生管理の実施を求めること等を盛り込んでおり、15年ぶりの大改正になります。現在、施行に向けて関係者のご意見をお伺いしながら制度の詳細について検討を進めております。

動物由来感染症対策、食品安全対策を進め、公衆衛生の確保、向上を図るためには、貴会と第一線で活躍されている獣医師の皆様のご理解、ご協力が不可欠です。今後とも公衆衛生の向上に向けた一層のご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴会の今後ますますのご発展と会員各位の一層のご活躍を祈念いたしまして、私のお祝

いの言葉といたします。

〈世界獣医師会 ジョンソン・チャン会長〉



ジョンソン・チャン
世界獣医師会会長挨拶

日本獣医師会の藏内会長、ご来賓の皆様、ご来場いただいたすべての皆様にご挨拶を申し上げます。

今日は、家庭動物の診療を含む、質の高い獣医療の提供を通じて社会に貢献するという目標を有する、熱意ある獣医師の集まりである日本獣医師会が創立70周年を迎えた記念すべき日です。日本獣

医師会は力強く発展し、これまで数々の業績を達成し、また国内外の関係機関と協力関係を結ばれています。

私自身、日本獣医師会からの多大なご支援に感謝しており、特に世界獣医師会の会長選挙の折には、藏内会長から力強いご支援をいただきました。また、酒井副会長には、現在、世界獣医師会の評議員をお務めいただき、世界獣医師会が遂行する様々なミッションにおいて、ご協力をいただいております。本日、この記念すべき日に、世界獣医師会を代表して、日本獣医師会の創立70周年をお祝い申し上げます。

世界獣医師会と日本獣医師会は、これまで緊密な協力関係を築いてまいりました。私たちは、長年にわたり良好なパートナーとして互いに協力しています。また、日本には、世界獣医師会が発表する声明や数多くのプロジェクトにご賛同いただくとともに、世界の獣医師会に対し多大な貢献をされています。

1995年に日本獣医師会が横浜で主催された世界獣医師大会は、非常にすばらしいものでした。この大会では1万人が参加され、2018年の今日に至るまで、この参加者数は最高記録となっています。

近年では、2016年に福岡で第2回世界獣医師会-世界医師会“One Health”に関する国際会議が、日本獣医師会と日本医師会のご支援のもと開催され、成功を収めました。関係者にとって、非常にすばらしい国際会議となり、多くの賞賛の声が寄せられました。

日本獣医師会の獣医学教育分野における成果は、なお一層特筆すべきものです。日本獣医師会は、アジア獣医師会連合の会員各国の臨床獣医師を対象とする、アジア地域臨床獣医師等総合研修事業を設置されました。この研修事業は一時中断されていましたが、幸いなことに藏内会長のご就任後に再開されました。この研修事業によりアジア太平洋諸国出身の多数の獣医師が日本で研修する機会を得ることができました。この事業に参加された獣医師は最新の知識と技術を修得され、帰国後、自国の

現場において学んだ内容を実践することができるという大変有意義なものです。この研修事業は、各国の獣医師同士の交流を促し、獣医界を良い方向へ発展させていく活動です。

地理的な近さと文化的な類似から、日本獣医師会、大韓獣医師会及び台湾獣医師会は緊密な協力関係を結んでいます。3カ国の獣医師会では、これまで各方面で相互に協力をしてまいりました。こうした関係は、平和的な友好関係と効率的な協働の取組みを維持していくために不可欠なものです。

日本獣医師会は長い歴史と、非常に発達した獣医療システムを備えており、アジアだけではなく世界の獣医師会の先導的役割を果たしていることは間違いありません。日本獣医師会は、獣医界だけではなく、広く日本国民に貢献していると確信しております。

ここまで申し上げたような名声を獲得することは容易ではなく、日本獣医師会はこれまで数々の困難を乗り越えて来られたものと思われまふ。日本獣医師会に感謝を申し上げるとともに、私たち獣医師が今後より良い未来を築いていけるよう願っています。

日本獣医師会の今後ますますのご成功、ご発展をお祈りして、70周年記念へのご挨拶とさせていただきます。

〈公益社団法人 日本医師会 横倉義武会長〉



横倉義武日本医師会
会長挨拶

本日、ここに公益社団法人日本獣医師会創立70周年記念式典が、盛大に開催されますこと、日本医師会として、心よりお慶びを申し上げます。

式典の開催に当たりまして、日本医師会を代表して、お祝いの言葉を申し上げます。

公益社団法人日本獣医師会におかれましては、昭和23年の設立以来、獣医学の

振興・普及、公衆衛生の向上や安全・安心な畜産の振興、さらには薬剤耐性対策などに真摯に取り組まれ、創立70周年を迎えられましたことに対し、心から敬意を表するものであります。

さて、医学の歴史は、感染症との戦いであったと言っても過言ではありません。近年だけを見ましても、エボラ出血熱、MERS、ジカウイルス感染症、国内では Dengue 熱の流行など、様々な感染症が問題となっておりますが、これらの感染症の多くは人獣共通感染症であります。グローバル化が進む中、人間や動物の世界的な移動が増え、さらには温暖化等の気候変動により、感染症の宿主となる動物の生息地が気候に適した場所へ移動するなど、わが国でこれまで感染事例がない、あるいは極め

てまれであった感染症の発生が、現実的な脅威として浮かび上がっています。

2020年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、国際的な交流が一層盛んになると考えられますが、同時に病原体を持った動物の流入、あるいは感染症にかかった人の往来なども懸念されます。このことから、国内のみならず、国際的な感染症対策が重要となりますが、その意味で医療、獣医療等の関係者がより一層連携し、一体的な感染症対策の推進につなげていく必要があると考えております。

2012年10月の世界医師会と世界獣医師会による協力関係を構築するための覚書に続いて、わが国におきましても、2013年の11月に日本医師会と日本獣医師会との間で学術協力の推進のための協定書を締結し、緊密な連携のもと、感染症対策等の強化に取り組んでいるところであります。こうした取組みは、徐々に拡大し、今では全国すべての地域の獣医師会と医師会の間におきまして、協定の締結に至っております。

2016年11月には、先ほど来、お話が上がっておりますが、第2回世界獣医師会・世界医師会“**One Health**”に関する国際会議を福岡県で開催し、**One Health**の概念に基づき行動し、実践するための福岡宣言が採択されました。**One Health**社会の構築に向けた取組みのためにも、貴会をはじめ、獣医師の皆様方の一層のご活躍が不可欠であると認識しており、日本医師会といたしましても、引き続き貴会との連携がこれまで以上に緊密になりますように、さらなる取組みを進めてまいり所存であります。

結びになりますが、長年にわたり、獣医学術の振興・普及、獣医事の向上、動物愛護福祉の増進、獣医師会の発展などに多大なご尽力を賜り、本日表彰を受けられる皆様に対し、心よりお慶びを申し上げます。

また、藏内会長のもと、日本獣医師会が70周年を契機にますます発展されますこと、また、獣医療の各分野でご活躍されている会員の皆様のご健勝を深く祈念をいたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

〈自由民主党獣医師問題議員連盟 森 英介 幹事長〉

ご紹介にあずかりました、自由民主党獣医師問題議員連盟の幹事長を務めております、森 英介です。

現在、会長の麻生太郎副総理兼財務大臣が海外出張中のため、代理で一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

日本獣医師会の創立70周年、誠にめでたうございます。

日本獣医師会の歴史を振り返ってみますと、その前身である戦前の獣医師会は昭和3年、1928年に創立されましたが、1948年戦後GHQによって解散させられました。しかし、同年速やかに日本獣医師会を再建されて



森 英介自由民主党
獣医師問題議員連盟
幹事長挨拶

おり、当時の獣医師の先生方の心意気と使命感を強く感じているところです。

それから70年が経過し、今日の隆盛に至るに際しては、藏内勇夫会長をはじめ、歴代の会長、会員の皆様方の獣医師会活動に対する多大なるご貢献の賜物であり、心から敬意を表したいと思っております。

獣医師の先生方の役割の重要性については、これまでのご来賓の挨拶にもありましたが、獣医師会活動を通じ、獣医療の普及啓発、そして国民の利益のための様々な社会貢献に取り組んでこられました。私ども自由民主党獣医師問題議員連盟は日本獣医師会、また日本獣医師連盟と心をつなげて取り組み、獣医師の皆様方が業務を円滑に実施できるよう、またわが国の獣医療が発展、充実するよう努めているところであります。

先ほど、藏内会長、横倉会長からもお話があった**One Health**の推進につきましては、人獣共通感染症の拡大等は文明の所産との見方もありますが、新たな時代の要請に応じた課題として、獣医師と医師の連携協力が極めて重要と思われます。藏内会長、横倉会長のお二人とも福岡県のご出身であり、付け加えさせていただければ、わが自由民主党獣医師問題議員連盟の麻生会長も同県のご出身です。このように時宜を得た布陣となっておりますので、是非とも藏内会長、横倉会長にスクラムを組んで先頭に立っていただき、**One Health**の推進に取り組まれますことを心から願っているところです。

70年の節目に、今後ますます日本獣医師会が発展され、大きな貢献をされますことを心から祈念を申し上げます。ご挨拶に代えたいと思います。

〈公益社団法人中央畜産会 森山 裕会長〉



森山 裕中央畜産会
会長挨拶

公益社団法人日本獣医師会が、藏内会長のもと、創立70周年を迎えられましたこと、心からお慶びを申し上げます。

貴会は昭和23年に設立されて以来、農林水産分野のみならず、公衆衛生、医薬品開発、国際協力、動物愛護、野生動物、小動物の臨床など、多種多様な分野で活躍をする

獣医師の活動を支援して来られました。このことに対し

て、敬意を表する次第であります。

私ども中央畜産会は、貴会が設立された7年後の昭和30年に誕生した団体であり、畜産経営に対する経営集団活動を中心に取組んでまいりました。近年、畜産経営は頭数規模の拡大により、畜産衛生管理、疾病予防は経営者にとりまして、大変重要なものであり、これを怠ると経営に大きな損害が発生いたします。このことから、生産現場における畜産経営者と私ども畜産コンサルタント、また獣医師の先生方と一体となった経営支援活動の充実を期待しているところであります。

さて、わが国、畜産のこの10年を振り返りますと、平成22年に宮崎県の口蹄疫、また各地で発生いたしました鳥インフルエンザ、本年9月には岐阜県で発生した豚コレラ、さらには中国では猛威を振るっておりますアフリカ豚コレラなど、改めて家畜防疫の重要性を痛感しております。本会といたしましても、飼養衛生管理基準の普及、農場HACCPの考え方により、畜産や畜産物の安全性の高い畜産経営を認証するなど、畜産経営の衛生水準の向上に努めているところであります。

一方、家畜疾病の発生は、畜産経営にとりまして、存続の危機となるものでありますが、近年の自然災害による被害も同様であります。しかし、これら被害を受けた畜産経営に対する獣医師の先生方の迅速な対応にはいつも感銘を受けており、深く感謝をしております。

わが国も12月30日にTPP11協定の発効、日EUの経済連携協定も来年早々には発効すると見込まれております。2020年には、東京オリンピック・パラリンピック、2025年には大阪万博が開催され、海外から多くの人々が訪れ、人と物の動きが活発化してまいります。この動きが、海外からの家畜伝染病の侵入の原因ともなりかねないものであります。特に、中国のアフリカ豚コレラは口蹄疫と並び、恐れられている家畜疾病であります。この侵入防止については、農林水産省、貴会が中心となっていただくとともに、本会も全力を尽くしてまいりますので、よろしくお願いを申し上げます。

最後に、貴会のさらなるご発展と、獣医師の先生方をはじめ、関係各位のご健勝を祈念いたしまして、私の祝辞とさせていただきます。

(4) 来賓ご紹介・祝電披露

司会から来賓（別記）の紹介が行われた。

(5) 事業報告

境専務理事から次のとおり事業報告が行われた。

〈公益社団法人 日本獣医師会 境 政人専務理事〉

これより、前回の60周年記念式典以降、10年間における事業の概要を報告させていただきます。



事業報告を行う
境専務理事

本会は公益法人制度改革に対応するため、平成19年6月に開催された第64回通常総会において、公益社団法人への移行を目指すことについて承認を得ました。

その後、本会の組織・事業・財務運営の整備に努め、平成23年10月に公益認定申請を行い、平成24年3月に認定され、4月1日から公益社団法人 日本獣医師会として新しいスタートを切りました。

先ほど、藏内会長がご挨拶の中で申し上げたとおり、本会においては、この10年間、“One Health”の推進、家畜感染症対策、人と動物の共通感染症対策、薬剤耐性対策、狂犬病予防対策、動物愛護とマイクロチップの普及・推進、大規模災害への対応と支援、獣医学教育の改善・充実と国際水準への対応、女性獣医師の就業支援、獣医学術交流を通じた国際貢献等を重要課題として取り組んでまいりました。

これらはいずれもわれわれ獣医師の職責に関わる課題であります。本会は、会員である地方獣医師会と問題意識を共有し、これらの課題解決に向けて地方獣医師会と共に活動を推進してまいりました。

特に、“One Health”の推進につきましては、本会は平成22年に「動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。」という獣医師会活動指針を採択しました。その具体的な活動として、平成25年に日本医師会と学術協力の推進に関する協定を締結し、平成28年11月に世界獣医師会、世界医師会、日本医師会及び日本獣医師会4者の主催による第2回世界獣医師会－世界医師会“One Health”に関する国際会議を福岡県北九州市で開催したほか、日本医師会との連携シンポジウムの開催等に積極的に取り組んで参りました。この間、47都道府県及び8政令市の全国55の地方獣医師会においても各地域の医師会と同様の連携協定を締結し、日本全国において“One Health”の実践体制が構築され、それぞれ活動しております。

この国際会議において採択され世界に向けて発信された「福岡宣言」では、医師と獣医師が連携して推進すべき“One Health”の課題として、人と動物の共通感染症の予防、抗菌剤の責任ある使用、医学・獣医学教育の改善整備を取り上げています。

人と動物の共通感染症をはじめとした感染症と薬剤耐性対策につきましては、本会が取り組むべき優先的課題として会長直属の特別委員会を設置し、重点的に検討を行っています。

人と動物の共通感染症対策につきましては、インフルエンザのほか、SFTS、MERS、SARS、エキノコックス、カプノサイトファーガ等の様々な感染症が世界的に話題となり、国民の関心も高まっています。本会では、これらの感染症に関する獣医師や医師等の関係者間での情報共有、社会への情報提供等に努めるとともに、これらの感染症対策の体制整備について関係機関への要請活動に取り組んでいます。

また、全世界で毎年5万5千人の人々が亡くなるなど、最も重要な人と動物の共通感染症の一つである狂犬病予防対策については、台湾の野生動物で52年ぶりに狂犬病が発生したことを受けて、わが国の予防体制を一層強化すべく狂犬病予防対策に関する検討を行い、国民への情報提供と普及、関係機関への要請を行っています。

また、この10年間においては、宮崎県で発生した口蹄疫、全国で断続的に発生した高病原性鳥インフルエンザ等の重篤な越境性家畜感染症に対しては、全国の獣医師への情報提供や、地方獣医師会と連携して防疫対応の支援を行っています。

さらに、薬剤耐性対策についても、わが国の「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」を踏まえ、日本医師会との連携シンポジウムの開催、日本獣医師会雑誌等による情報提供、獣医師の抗菌剤の使用実態調査等に取り組んでいます。

動物愛護とマイクロチップの普及につきましては、社団法人日本動物保護管理協会からマイクロチップのデータ登録事業を引き継ぐとともに、動物ID普及推進会議・AIPOの一員として他の動物愛護団体と連携しながら、地方獣医師会の協力も得て普及活動を実施して参りました。その結果、平成30年9月末には、本会の管理するデータベースには約185万頭の犬・猫等のデータが登録されています。

現在、動物愛護管理法の改正による家庭動物へのマイクロチップ装着・登録の義務化が検討されており、マイクロチップの一層の普及・活用と、個人情報の保護を含めた円滑な情報の登録・管理業務の実施体制の確立が期待されています。

大規模災害への対応につきましては、未曾有の災害となった東日本大震災において、本会は被災地の動物救護活動と動物診療施設の復旧支援及び義援金の募集を行いました。

熊本地震においても、ただちに「熊本地震被災動物診療券」の配布による診療費助成や被災地の獣医療提供体制の早期復旧に向けた支援及び義援金募集に取り組ましました。

また、熊本地震による被災動物を緊急に保護するため、九州地区獣医師会連合、九州動物福祉協会と連携して設置を計画していた九州災害時動物救援センターを、

熊本地震ペット救援センターとして早急に整備しました。その整備に要する資金は、本会が特定寄付金及び指定寄付金に関する指定を受け、全国の関係団体や企業のご理解とご支援を得て募集した寄付金を活用させていただきました。九州災害時動物救援センターは、わが国初の広域動物救護施設として、その後も九州北部豪雨における被災動物の受入れ等に活用されています。

東日本大震災及びその後の一連の緊急災害における経験を経て、緊急災害時被災動物救護対策の大幅な見直しが必要となったことから、本会は、地方獣医師会の災害対応についての地域活動ガイドラインや、獣医療支援チーム（VMAT）の認定を含む日本獣医師会の災害対応マニュアルの策定を進めています。

獣医師の役割についての啓発活動につきましては、平成19年10月、一般市民向けの普及・啓発イベントとして「2007動物感謝デーin TOKYO “World Veterinary Day”」を開催しました。第2回以降は「動物感謝デーin JAPAN “World Veterinary Day”」として、台風のため中止となった2013年を除いて毎年開催され、明日、第12回目の動物感謝デーが開催されます。その間、動物感謝デーは多数の関係省庁、関係団体・企業、獣医学系大学、獣医学生等も参加する大規模な市民参加型普及啓発イベントとして定着してきました。

また、本会はペットフード協会が中心となって毎年春に開催するペットに関連する総合イベントであるインターペットにも参加し、本会の役員、獣医師、国会議員、オリンピック出場スポーツ選手等が出演するステージ企画や、子どもたちに獣医師の診察を体験させるキッズ一日獣医師体験等を通じて広報活動を行っています。

獣医学教育の改善・充実への取組みにつきましては、本会は、国際水準の獣医学教育の提供を目標に掲げ、文部科学省や獣医学系大学と連携して支援活動を実施してきました。一方、本会は、国家戦略特区による獣医学部の新設は、このような獣医学教育改革に向けた関係者の努力に逆行するものとして懸念を表明して参りましたが、昨年、文部科学省の認可により新たな獣医学部教育がスタートいたしました。本会は、新設学部が文部科学省のご指導の下で国際水準に到達することを強く願うとする考え方を公表いたしました。

なお、参加型臨床実習及び家畜衛生・公衆衛生実習の実施体制の確保については、全国の獣医学系大学との連携・協力の下で「獣医学実践教育推進協議会」を設置して、わが国獣医学教育の改善・充実のための取組みを強化しています。

女性獣医師の就業支援対策につきましては、平成25年、会長直属の「女性獣医師支援特別委員会」を設置して、女性獣医師の就業環境の実態調査を行い、問題点の把握と支援策の提言を行うとともに、職域総合部会に設



池田一樹農林水産省消費・安全局長（右）から農林水産大臣感謝状を授与される菊地忠雄氏

置した「女性獣医師支援対策検討委員会」において、女性獣医師応援ポータルサイトを開設しての情報提供、雇用者等の理解醸成のためのシンポジウムの開催、獣医学生向けのセミナーの開催、就業支援研修等の具体的対策を実施しています。

国際貢献への取組みにつきましては、世界獣医師会、アジア獣医師会連合と連携しながら、第2回世界獣医師会－世界医師会“One Health”に関する国際会議を開催する等、本会は、これまでもアジアのリーダーとしての役割を果たしてきました。また、アジア地域から獣医師を招いて平成4年度から14年度まで実施した国際獣医師研修事業については、アジア各国からの再開を希望する強い要請を受け、平成28年度からJRA畜産振興事業としての助成を受け、全国の獣医学系大学等のご協力の下で「アジア地域臨床獣医師等総合研修事業」として再開し、アジア獣医師会連合の会合等においても、各国から事業の拡大及び継続の要望が出されるなど、大変好評を博しています。

また、本年1月に、日本獣医師会、大韓獣医師会及び台湾獣医師会の間で「東アジア3カ国における獣医学術交流に関する覚書」が締結され、来年2月に横浜で開催される本会の獣医学術学会年次大会（神奈川）においては、「東アジア三カ国獣医師会サミット」が開催されるなど、今後の東アジアにおける獣医学術交流の益々の発展が期待されています。

以上、本会創立後70年のうち、最近の10年間における主な事業の実施概況をご紹介します、事業報告とさせていただきます。

（6）功労者表彰

各省の大臣感謝状、局長感謝状、日本獣医師会の会長表彰状、感謝状、会長特別感謝状が各々受賞者の代表へ授与された。なお、各賞の受賞者氏名は次のとおり。



原田義昭環境大臣（右）から環境大臣感謝状を授与される中山和也氏

〈農林水産大臣感謝状〉

波岸裕光、菊地忠雄、渡辺順吉、勝見 晟、鈴木一郎、水谷 渉、辻 弘一、大野芳昭、北川精一、三野營治郎、正田忠一、細井戸大成、中間實徳、屋富祖幸栄

〈環境大臣感謝状〉

山内正孝、多田洋悦、渡邊 健、安藤泰正、大住 敬、桑原保光、小暮一雄、中山和也、竹原秀行、小西喜彦、立田 壽、藪添賢二、森 尚志、山根義久、麻生 哲

〈厚生労働大臣感謝状〉

小山田富弥、砂原和文、重田雅彦、中村 滋、後藤克正、倉林恵太郎、柴田晴夫、白井 芳、角井正樹、木島秀雄、須藤正之、若松久雄、山西重機、溜瀧眞之、村山真知子

〈農林水産省消費・安全局長感謝状〉

工藤洋一、種村高一、鈴木俊明、今野忠好、松田啓介、八木達彌、中前 均、原 哲男、三溝直人、坂江一久、福田 豊、草場治雄、佐藤州司、坂本 紘、西間久高

〈環境省自然環境局長感謝状〉

小松泰史、田中喬一、小杉浩造、荻曾敏之

〈厚生労働省医薬・生活衛生局長感謝状〉

水町春道、勝川千尋、野原隆士

〈日本獣医師会会長表彰状〉

大川三樹彦、菅野一敏、久保田知行、鈴木 昇、瀬能昇、中川光義、中館正吉、中村 章、濱名張彦、松田信二、森 清一、横井耕一、太田 孝、浦山良雄、森澤道明、吉田 昭、大澤正俊、神谷英樹、林 繁雄、水島健雄、宮 寛、紺野君子、兵藤哲夫、廣嶋文武、岩澤 信、遠藤恭介、楠原征治、井口又雄、唐澤千春、宮澤 宏、水野 拓、太田友三郎、西山治生、赤枝



大口善徳副大臣（右）から厚生労働大臣感謝状を授与される倉林恵太郎氏



藏内会長（右）から日本獣医師会会長表彰状を授与される廣嶋文武氏

雅雄，玉田尋通，酒井博邦，函城悦司，吉岡 豊，久米正彦，今井裕三，吉川寛樹，唐木茂樹，藤井 晋，水内征男，伊藤一志，鎌倉啓次，松本幸雄，森川哲司，谷川忠義，林 繁利，梶村 昭，中川 治，山崎 勝，岡田孝志，竹村孝男，鈴木敏寛，山口剛市，池尾辰馬，竹下正興，高瀬公三，鶴田 勉，比良 忠，政岡和彦，向井佑次郎

〈日本獣医師会会長感謝状〉

喜田 宏，鶴林正貴，野村 武，藤田紀彌，山根康義，萩島邦俊，梶井直俊，柴田武志，合田光昭，井手口秀夫

〈日本獣医師会会長感謝状（中央推薦）〉

一般社団法人九州動物福祉協会，平井潤子，船津敏弘，山口千津子

〈日本獣医師会会長特別感謝状〉

共立製薬株式会社，日本全薬工業株式会社，日本ハム株式会社，ベーリンガーインゲルハイムアニマルヘルスジャパン株式会社，ロイヤルカナンジャパン合同会社，株式会社安田システムサービス

(7) 受賞者代表謝辞

農林水産大臣感謝状を授与された菊地忠雄氏が受賞者を代表して，次の謝辞を述べられた。

〈菊地忠雄(公益社団法人 宮城県獣医師会)〉

本日は，公益社団法人 日本獣医師会の創立 70 周年の記念式典において受賞の榮に浴し，感激に身の引き締まる思いであります。

もとより，われわれ獣医師は，国家資格を有する専門職業人として，各職域において獣医療にかかわる専門の技術と知識の提供を通じ，動物の健康の増進，畜産の発展，公衆衛生の向上，さらには動物愛護・福祉や野生動物の保護に寄与すべき社会的責務を有しております。

このたび，図らずも私どもが表彰を受けましたことは，誠に身にあまる名誉であります。

今日，獣医師に対する社会的要請は，益々広範かつ高度なものとなっており，本日のこの榮譽を深く心に刻み，さらに業務に励み，精進を重ねる所存でございます。

受賞者を代表して心から感謝申し上げるとともに，今後とも一層のご指導，ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。お礼の言葉とさせていただきます。



受賞者を代表して，謝辞を述べる菊地忠雄氏（左）

(8) 閉会の辞

〈公益社団法人 日本獣医師会 村中志朗副会長〉



閉会挨拶を行う
村中志朗副会長

村中副会長から、来賓のご臨席に対するお礼とともに公益社団法人 日本獣医師会創立70周年記念式典を閉会する旨が述べられ、閉会された。

森山 裕（中央畜産会会長・衆議院議員）

【農林水産省】

池田一樹（消費・安全局長）

石川清康（畜水産安全管理課長）他

【環境省】

正田 寛（自然環境局長）

永島徹也（総務課長）

長田 啓（動物愛護管理室長）他

【厚生労働省】

宮本真司（医薬・生活衛生局長）

道野英司（食品監視安全課長）他

【文部科学省】

小幡泰弘（高等教育局専門教育課長）他

【その他】

ジョンソン・チャン（世界獣医師会会長）

横倉義武（日本獣医師会会長）

5 記念式典臨席の来賓等

(1) 来 賓

【大臣・副大臣・国会議員】

吉川貴盛（農林水産大臣・衆議院議員）

原田義昭（環境大臣・衆議院議員）

大口善徳（厚生労働副大臣・衆議院議員）

森 英介（自由民主党獣医師問題議員連盟幹事長・衆議院議員）

(2) 招待者

獣医学系大学、関係団体、団体賛助会員、一般関係会社等

II 公益社団法人 日本獣医師会創立70周年記念講演

- 1 日 時：平成30年11月30日(金) 15:45～16:30
- 2 場 所：パレスホテル東京 2階「葵」
- 3 演 者：横倉義武（日本医師会会長）
- 4 演 題：「健康長寿社会に向けて」
- 5 概 要：

横倉会長から、創立70周年を記念し「健康長寿社会に向けて」と題して、①医師会の組織、事業の紹介の後、②“One Health”の取組みとして、日本医師会における動物由来感染症に関する市民公開講座の開催、動物由来感染症ハンドブックの発行、薬剤耐性対策の啓発の他、本会との連携シンポジウム、第2回世界獣医師会－世界医師会“One Health”に関する国際会議の開催について報告され、今後の両会の取組みに向けた提言として、各地域におけるワンヘルス・アプローチの体制強化、ペットから人へ伝播する感染症及び薬剤耐性菌に係る医師・獣医師への教育の充実、飼い主をはじめ、国民に対する正しい情報・知識の啓発に対する取組みの重要性が述べられた。さらに③健康寿命の延伸に関して、閣議決定された高齢社会対策大綱及び経済財政運営と改革の基本方針2018における予防・健康づくりの推進が示され、日本医師会における取組みとして、かかりつけ医機能研修制度、健（検）診データの一元化による生涯を通じた健康管理、経済団体・医療団体・保険者・自治体等からなる日本健康会議の取組み推進が紹介された。ま



記念講演を行う横倉義武日本医師会会長

た、医師の役割は診断治療だけではなく、『人生100年時代』に生涯を通じ健やかに過ごすためには予防が必要であるとして、教育・職域と連携した「予防」、病院診療と連携した「治癒」、多職種と連携した「支援」の重要性が述べられる一方、人口減少社会における社会保障に対応するためには、健康寿命の延伸、認知症対策、高齢者の生きがいづくりにより、社会参加できる年齢を上げることが不可欠であり、医療の果たす役割は極めて重要である旨解説された。

Ⅲ 公益社団法人 日本獣医師会創立 70 周年記念祝賀会

- 1 日 時：平成 30 年 11 月 30 日(金) 16:45～19:00
- 2 場 所：パレスホテル東京 2 階「葵」
- 3 概 要：

(1) 開会挨拶

藏内会長から、創立 70 周年記念祝賀の開会に際し、大要次のとおりの挨拶がなされた。

〈公益社団法人 日本獣医師会 藏内勇夫会長〉

本日、皆様方には、午前中の全国獣医師会会長会議から、本会 70 周年記念式典、記念講演会、祝賀会まで長時間にわたり、ご参加いただき誠にありがとうございます。

皆様のご支援により 70 周年記念式典を盛大に開催することができました。また、森 英介 自由民主党獣医師問題議員連盟幹事長には、式典から引き続きご出席をいただき、麻生会長の秘書である野田様にも駆けつけていただきました。そして、横倉会長にもご無理を申し上げ、今回ご講演を引き受けいただきました。ご講演では長寿社会を取り上げていただきましたが、われわれも高齢化社会における愛玩動物飼育の在り方等の課題を抱えており、大変参考となりました。一方、One Health の推進につきましても、今後、日本医師会と連携を密にし、取組みを推進したいと考えております。

さらにジョンソン・チャン会長にはご多忙のところ遠方からご臨席いただきました。今後とも、日本獣医師会は、世界の獣医界のために努力する決意でありますので、よろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、本日の祝賀会では、皆様方にご歓談いただくとともに、様々なご意見をいただき、日本獣医師会の活動に反映させていただきたいと思っております。

本日は誠にありがとうございました。

(2) 来賓ご紹介

司会から来賓の紹介が行われた。

(3) 来賓ご祝辞

ジョンソン・チャン世界獣医師会会長から、大要次のご祝辞を頂戴するとともに、藏内会長へ記念品の贈呈が行われた。

〈世界獣医師会長 ジョンソン・チャン会長〉

藏内会長、お集まりの皆様、日本獣医師会の 70 周年を改めてお祝い申し上げます。

日本獣医師会は、これまで世界の獣医界のために貢献され、多大なる成果を収めてこられました。この場をお借りして世界獣医師会を代表し、記念品をお贈りいたします。

今回お贈りする物は、台湾固有種の山娘という青い鳥が花の周りを飛ぶ姿があしらわれた花瓶です。日本獣医師会の輝かしい未来を表現した図案であると信じております。

(4) 乾 杯

壇上に来賓、日本獣医師会の役員及び顧問が登壇し、北村顧問から次のとおり挨拶がされた後、乾杯が行われた。

〈公益社団法人 日本獣医師会 北村直人顧問〉

紹介をいただきました北村です。本会は 70 周年を迎え、そして今日から 80 周年に向けて一步を踏み出します。温故知新という言葉がありますが、この 10 年間の思い出話に花を咲かせるとともに、将来に向かってのご意見をいただければ大変嬉しく思います。それでは 70 周年を迎えるとともに、さらなる 80 年を目指して乾杯をさせていただきます。



記念祝賀会で挨拶を行う藏内勇夫会長



ジョンソン・チャン世界獣医師会会長から藏内会長へ記念品の贈呈



乾杯を行う北村直人顧問（中央）

(5) 祝 宴

来賓をはじめ、功労賞受賞者、地方獣医師会関係者、畜産・動物関係団体、企業関係者が集い、和やかに歓談が行われた。

(6) 万歳三唱

明日、12月1日開催の2018動物感謝デーの企画検討委員会委員長、本会理事である神奈川県獣医師会の鳥海会長から、次のとおり挨拶された後、万歳三唱が行われ、閉会した。



万歳三唱を行う鳥海 弘神奈川県獣医師会会長

〈公益社団法人 神奈川県獣医師会 鳥海 弘会長〉

本日、地方獣医師会会長の皆様には午前中の全国獣医師会会長会議から、その他皆様には午後の日本獣医師会の創立70周年記念式典、記念講演さらに記念祝賀会と長時間にわたりお付き合いをいただき厚くお礼申し上げます。

ここで少しお時間を頂戴したいと思います。

来年2月8日から3日間、新横浜プリンスホテルを会場に、私ども神奈川県獣医師会が開催担当として、平成30年度の獣医学術学会年次大会を開催いたします。本日もご臨席のジョンソン・チャン会長には、日本、韓国、台湾の三カ国獣医師会によるサミットにご出席いただく予定であります。また、日本大学と麻布大学の会場をお

借りし、各大学で臨床実習のプログラムを予定しています。現在、参加登録とともに、この大学におけるプログラムの登録も受け付けておりますので、多くの方のご参加をお願いいたします。一方、本日は企業の皆様も多数ご出席されておりますが、広告、展示等に協賛をいただき、この場をお借りして感謝申し上げます。協賛につきましても引き続きご協力をお願いいたします。

なお、明日は2018動物感謝デーを駒沢公園から二子玉川ライズに移して開催いたしますので、ここで中締めとさせていただきます。

それでは、元気に声高々に万歳三唱をしたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。